

避難生活で被害を拡大しないために！

**次の災害に備えるための
『被災者支援拠点』
(区民避難所・地域防災拠点)
運営訓練**

参加要項

2013年8月24日(土)・25日(日)開催

■ご質問受付

港南防災ネットワーク

日本財団 次の災害に備える企画実行委員会
事務局 (ダイバーシティ研究所内)

1. 訓練概要

名 称 | 次の災害に備えるための『被災者支援拠点』運営訓練

日 時 | 2013年8月24日(土)・25日(日)

会 場 | 港区立港南小学校

主 催 | 日本財団 次の災害に備える企画実行委員会

共 催 | 港南防災ネットワーク

後 援 | 東京都港区芝浦港南地区総合支所

想定する参加者 | 港区内において、災害時に被災者支援をおこなう地域組織・自治会の方や企業担当者の方、港区芝浦港南地区住民の方

参加申込み方法 | 下記のフォーマットをご使用になるか、又は、メールで下記の①～⑨までの項目についてご記入の上、参加申込み先までご連絡ください。

①氏名		②ふりがな	
③所属団体名		④自宅電話番号	
⑤自宅住所			
⑥緊急連絡用電話番号		⑦生年月日(西暦)	
⑧性別		⑨小学校での宿泊の有無	宿泊する・しない

※朝食数の手配の為、会場での宿泊の有無は必ず事前にお知らせください。

※小学校で宿泊されない場合、2日目午前8:00に5階ランチルームへ集合してください。

参加申込み先 | 港南防災ネットワーク 事務局

E-MAIL : catkimi8k@bp.itsudemo.net

F A X : 03-5463-1815

お問い合わせ | 一般財団法人 ダイバーシティ研究所

E-MAIL : tokyo@diversityjapan.jp

電話番号:03-6233-9540

※営業時間 10:00～18:00(土・日・祝日休業)

※8月13日～18日まで夏季休業の為、ご返信が遅れる場合がございます。

参加申込み参加〆切 | 8月18日(日)

2. 企画の背景

東日本大震災では最大で 30 万人を超える人々が、体育館や公共施設などで避難生活を送りました。今回、震災関連死と認定された 1,600 人を越える人々のうち、避難生活での疲労が原因とされる方は 3 割にのぼります。危機的な状況の発生を予期していながら回避できず、せっかく助かった命が避難生活の中で失われてしまったことは慚愧に堪えません。

そこで私たちは、緊急救助やがれきの片付けなどの影に隠れがちであり、支援者や避難者自身も課題に気づきにくい避難所での生活に着目し、災害発生時に地域の被災者全体を支援する「被災者支援拠点」としての避難所のあるべき姿や、支援のあり方をモデル化して示す試みに挑戦します。あるべき避難所の姿を過去の災害での経験を元に実際に再現し、首都直下型地震が発生したことを想定して、再現された避難所で宿泊型の避難訓練を実施します。

訓練で得られた知見を元に、私たちは次の災害に備えた実践的で具体的な避難所運営マニュアルの提言や、被災者支援のためのしくみづくりに取り組みたいと考えています。

<「震災関連死」とは？>

家屋の倒壊や津波などによる直接的な原因ではなく、避難中の精神的・肉体的な疲労や持病の悪化、過労や自殺など、震災に関連して死亡することです。阪神・淡路大震災で初めて提起された概念で、約 1,000 人が認定された。避難所で水分摂取を控える高齢者などが、肺炎や血栓が引き起こして死に至るケースが多いといわれています。

<「被災者支援拠点」とは？>

避難所は生活の場としての機能とともに、被災した地域全体の物資や情報の拠点ともなる。従来は避難所内に生活している人に着目するあまり、在宅で避難を続ける被災者への支援が見落とされることがある。そこで私たちは、避難所とその周辺の被災者を支援する拠点としての機能に注目するために、避難所の呼称を「被災者支援拠点」と改めることを提案します。

3. 日本財団 次の災害に備える企画実行委員会とは

「次の災害に備える企画実行委員会」は東日本大震災での支援活動経験をもとに、次の大規模災害に備える必要性を痛感して発足したプロジェクトです。

私たちは東日本大震災直後に、阪神・淡路大震災から継続して支援活動をおこなってきた団体として「被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト」を組織し、宮城県内の避難所を巡回して細かなニーズを確認して専門性の高い NPO につなぐ活動を展開しました。こども、高齢者、障害を持つ方やアレルギーなどの疾患を持つ方等、被災者の誰もが安心できる避難所を運営し、また地域にとどまっている在宅被災者のために活動できる実践的なしくみと訓練の普及を目的として、地域の民間団体、自治体、企業と連携して活動しています。

<企画実行委員会 委員メンバー>

川北秀人 (IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]) <委員会代表>

青柳光昌 (公益財団法人 日本財団)

田村太郎 (一般財団法人 ダイバーシティ研究所)

前川典子 (ダイバーシティせんだい、一般財団法人 ダイバーシティ研究所)

村野淳子 (大分県社会福祉協議会)

横尾俊成 (NPO 法人グリーンバード、NPO 法人スタンバイ、東京都港区議会議員)

4. プログラム概要

実施日時 | 第1日目 (受付開始 14:30) 15:00~21:30

および 第2日目 8:00~11:00

※ 原則、2日間全てのプログラムへのご参加をお願いします。

※ 宿泊ができますが、会場以外で宿泊される場合は申込みの際にお知らせください。

実施場所 | 港区立港南小学校内 教室(2F)、ランチルーム(5F)、その他

実施内容 | 2つのシナリオに基づく避難体験訓練(シナリオは当日配布します)

※ 第1日目は発生直後の避難生活体験を、第2日目は震災から3日目の被災者支援拠点を想定した地域活動のシミュレーションを行います。

参加対象 | 災害時に避難所運営等に携わる可能性がある港区在住または在勤の健康な方

定員 | 40名程度

参加費 | 無料

※原則、見学はご遠慮いただいております。



▲2013年3月25・26日日本財団ビルでの訓練風景(参考)

<ご留意点>

※ 事務局にて訓練中の写真撮影、ビデオ撮影を行います。訓練中での振り返りや、今後開催する訓練のための資料として使用します。ご参加者による訓練中の写真撮影は、訓練への集中の妨げになりますので、ご遠慮ください。

※ 2日間、校内のエレベーターは使用できません。各階への移動には階段を使用していただくため、歩きやすい靴でおこしてください。

※ 建物内の空調設備は使用しません。体温調整しやすい服装でおこしてください。

※ 屋内プール用の温水シャワーをご使用になれます。石鹸・シャンプーは使用できません。

※ 洗面所をご使用になれますので、タオル、洗面道具、コンタクトレンズの洗浄液等は必要に応じてご持参ください。

24日(土)				
14:30 ＜受付＞ 1F 地域開放ロビー	受付開始			
15:00 ＜5階＞ ランチルーム	オープニング ・主催より訓練の主旨説明（田村委員） ・ゲスト講演 久能先生（元・榴ヶ岡小学校校長先生）			
16:00 ＜5階＞ ランチルーム →＜2階＞ こうなんホール	訓練オリエンテーション ・設備の使用について ・訓練の災害想定 ・Aチーム、Bチームへのチーム分け、役割カード配布 ・シナリオの演じ方 デモンストレーション			
17:00 ＜2階＞ 普通教室 4・3	訓練シナリオ開始 Aチーム・Bチームともに、ゴールは 「避難所開設」、「避難者名簿作り」、「夕食配布」			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Aチーム</th> <th>Bチーム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・港区の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが、）」を役割指定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・標準的な物資に加えて、「スペシャルニーズ」に対応した備品を追加で使用 ・班作り・名簿作りのマニュアルを使用 ・「属性」、「健康状態」に加えて、「避難所のためにできること」を役割指定 </td> </tr> </tbody> </table>	Aチーム	Bチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・港区の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが、）」を役割指定
Aチーム	Bチーム			
<ul style="list-style-type: none"> ・港区の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが、）」を役割指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準的な物資に加えて、「スペシャルニーズ」に対応した備品を追加で使用 ・班作り・名簿作りのマニュアルを使用 ・「属性」、「健康状態」に加えて、「避難所のためにできること」を役割指定 			
19:00	ニーズアセスメントの実施			
19:30 ＜5階＞ ランチルーム	パターン A、パターン B の共有ワーク ・ふり返り ・委員によるコメント（村野委員）			

20:30 <5階> ランチルーム	・参加企業 プレゼンテーション ・追加の夕食
21:30 <5階> ランチルーム	就寝前の諸注意 ・シャワー ・明日の朝食について
23:00	消灯・就寝 ・就寝場所は、普通教室3・4、こうなんホール、国際科室（全て2階）
25日（日）	
7:00 <2階> 普通教室 4・3	起床 ・清掃活動 普通教室3・4、こうなんホール、国際科室、シャワー室
7:30 <2階>	朝食配布
8:00 <5F> ランチルーム	講義 ・発災最初の夜～3日目までの避難所でおこりうる状況（久能先生） ・本日の訓練の想定説明（発災後3日目）
8:30 <5F> ランチルーム	「避難所運営委員」、「地域活動」に関するグループワーク
10:00 <5階> ランチルーム	全体ふりかえり ・持ち帰りのためのワーク
11:00 <5階> ランチルーム	2日目プログラム終了・解散

※スペシャルニーズとは

広域的な支援では見落とされがちな、避難所における軽度の要介護者、精神的要支援者、外国人、障害者、アレルギーや難病を持つ方のニーズのこと。

5. 会場アクセス

港区立港南小学校

〒108-0075 東京都港区港南 4 丁目 3 番 28 号

(最寄の JR 品川駅・港南口から徒歩 15 分)

※「正門」ではなく、校舎東側にある「地域開放門」からお入りください。

(首都高速道路、ファミリーマートが目印です)

地域開放門を入り、左側の建物が校舎です。校舎内、1 階で受付を行います。



以上